

民主
PRESS MINSHU

号外 静岡3区版

平成25年7月25日

民主党プレス民主編集部

〒100-0014
東京都千代田区永田町1-11-1
電話03-3595-9988 (代表)
press@dpj.or.jp
http://www.dpj.or.jp

**明日の日本
生活が第一**



～ 協同・連帯 共生・安心 ～

前衆議院議員 民主党静岡県第3区総支部

小山のぶひろ 氏に訊く

公平・公正な政治姿勢こそ、本来の「民主党の矜持」

「選挙で応援して貰えなかったからといって必要な事業も行わないとか、選挙で応援してもらったからといって無駄な事業を行うとか、そういうことをしてはならない。自分の利益や選挙の応援の有無にかかわらず、公平・公正な態度で、必要なことは行い、不必要なことは行わないことが、『与党の矜持』『民主党の矜持』だ」。2009年の選挙で当選して間もない頃、先輩議員から教えられたことです。当たり前の内容です。でも、私の胸に響くものがありました。以来、この言葉をずっと胸に抱いて三年三カ月の任期の間、仕事に取り組みました。選挙が終わったら、それこそ「ノーサイド」。選挙で応援していただかなかった方、団体からのご要望であっても、それが必要なものであれば、全力を尽くして参りました。中には、ご要望のハードルが高くて、あるいは私の力不足により、実現できないものもありましたが、施設の立替、新法の制定、被害補償、地域のインフラ整備など、基本的にしっかりと対応してきたつもりです。また、一方で、健全な批判精神を失うことなく、自分と違う意見に敬意を持ちつつも、自分の意見・信念については、主張を貫いてきたつもりです。

「あの人は必ず選挙の際に裏切るから、

らっしゃいました。また、私からすれば意地悪だなと思うことを一部の人たちからされたこともありました。「なんであんな人たちの言うことに耳を傾けるんだ！」と自分に近い人達から言われたこともありました。しかしながら、住民の皆様のことを思えば、利用者の方のことを思えば、地域を愛してあげば、必要な要望にお応えしない、という選択はありえないのです。「公平・公正な姿勢を持つと、国会議員というものは何と立場が弱いものか！」と思ったこともありました。それでも、私は、公平・公正な姿勢、冒頭の「与党の矜持」を概ね貫き通し、良かったと思っっています。

党派・地域に関係なく、自分の気に入らない議員や首長だからと言って要望を受け付けないこと、自分の気に入った議員や首長だからといって余分な予算をつけてしまうことなど、不公正な姿勢を持つ人がいることを耳にすることがあります。これらは、まさに古い政治・権威主義的な政治であり、「驕り」の象徴、無駄と癒着の温床です。党派や政策・理念以前の問題です。

ともあれ、私は、捲土重来を期すことが出来ても、飽くまで「公平・公正な態度」、『与

前衆議院議員 小山 展弘